



ゼロの町 ひろのちょう 洋野町



岩手県洋野町役場防災推進室
主事 橋場睦夫

1 はじめに

洋野町は、岩手県の最北端にあり、人口は約1万7,000人の海と山の豊かな自然にめぐまれた町です。

特産物に「ウニ」「アワビ」、物作りでは「大野木工」があります。

そして、本町は東日本大震災で津波が襲来し、多くの家屋等に被害を受けた町でもあります。

2 洋野町消防クラブ育成会の概要

本町には洋野町消防クラブ育成会という任意組織があります。この組織は、幼年消防クラブと少年消防クラブの活動を支援することを目的に、平成元年に結成されました。会員は、消防団と婦人消防協力隊員、さらに趣旨に賛同する法人又は個人で構成されています。

実は、これ以前には子供の火遊びによる火災が度々発生していました。そのため、火災の減少を目標に町民の火災予防に対する関心を高めることが重要であると考え、幼少期に防火意識を植え付けることにより、将来的には全世帯が防火思想の高い地域になることを目的に、保育施設や小学校及び地域関係者の協力を頂き、各地区に消防クラブを結成し活動しています。

昭和60年3月に少年消防クラブが、昭和60年4月に幼年消防クラブが結成され、幼年消防クラブ18団体、少年消防クラブ6団体になりましたが、保育園の統廃合などで、現在は、幼年消防クラブ8団体、少年消防クラブ6団体となっています。

3 幼年消防クラブ

幼年消防クラブ員は、町内すべての保育所単位で構成され、保育所ごとにクラブ員任命式で防火宣言を行い、防火塗り絵コンクールに参加するほか、町消防団特別点検では、特別演技、分列行進に参加し活動しています。

4 少年消防クラブ

少年消防クラブ員は、春と秋の火災予防運動期間中、消防団と一緒に警戒パトロールや一般家庭予防査察を行い、消火器や住警器設置を呼び掛けています。これは、消防団と少年消防クラブ員が一般家庭を訪問することで、住民の防火意識の高揚に繋がります。一軒一軒丁寧な一般家庭査察が行えることで防災の大切さを伝えることができます。

また、消防団特別点検の防火パレードや消防署で行われる防災講習会に参加するとともに、夏休み期間中にはクラブ員全員が防火ポスターを作成し洋野町民文化祭に出展しているほか、小学校の運動会では、軽可搬ポンプ操法を実施し日頃の訓練の成果



防火パレード



少年消防クラブ軽可搬操作法



一般家庭予防査察

を披露しています。

また、クラブ員は月に15日間、夜20時から20時30分まで、消防署の職員と一緒に「おやすみ前に、もう一度、火の点検をしましょう」と呼びかける防火広報も行っています。

5 育成会結成10周年記念事業

平成28年度には、洋野町消防クラブ育成会結成10周年記念として、洋野町消防クラブの集いを開催し、町内のクラブ員、指導者、父兄約400人が参加しました。



洋野町消防クラブ育成会結成10周年記念

6 全国少年消防クラブ交流会

本町クラブでは昨年、初めて全国少年消防クラブ交流会に参加し、各種訓練等を通し全国のクラブ員との交流を行うことができました。

7 死者行方不明者ゼロの町

本町は、東日本大震災で津波が襲来し、家屋の全壊10棟、半壊16棟、船舶の流出及び破損277隻の被害がありました。被害のあった岩手、宮城、福島の沿岸自治体で唯一死者行方不明者ゼロの町でした。

それは、高さ12mの防潮堤が津波を大幅に減衰させたため住宅地区の多くには津波が及ばず、防潮堤によって多くの命が救われました。

しかも、防潮堤のない住宅地区（八木地区）でも死者行方不明者はゼロでした。

この地区には幼年消防クラブ、少年消防クラブ、自主防災組織、消防団、婦人消防協力隊があり、地域住民が積極的に幼少年期から始まる防火・防災思想の普及を継続することで、どの年代も防災に力を注いでいたからに違いありません。

更に、本町では明治三陸津波（明治29年）や昭和三陸津波（昭和8年）と過去の災害を教訓に、毎年沿岸地区住民を対象に津波避難訓練を実施していることも一つの要因になったと思われます。

この防災の灯を消さないように、これからも洋野町消防クラブ育成会が地域の防災に貢献していけるように、今後も取り組んでいきたいと思えます。ゼロの町洋野町がこれからも続くように願いを込めて。